

新人のプロフィール

4月の定期異動で新たに統計課勤務となった8名を紹介します。



古塔への誘い

課長補佐(総括)
渡辺 武

ある建築史家は、「日本の建築物で世界に誇り得るものは、城と塔である。」と言っています。私がこの古い塔(五重塔、三重塔、多宝塔等)の姿に心ひかれ、各地を巡るようになってから10年余が過ぎましたが、面白いもので、一つの物に興味を持つようになると、今まで見えなかった物も出てくるから不思議です。例えば、山陽本線の宮島口から乗船し、しばらくして前方の丘に目を凝らすと、厳島神社の五重塔と多宝塔が左右に見えてくるはずだ。

また、数多くのすぐれた塔に接しているうちに、寺院配置や建築様式の変遷などが、臍気ながら判ようになってきたのも楽しみの一つです。

現在までに、北は弘前の最勝院五重塔、南は九州白杵の竜源寺三重塔と、180余の古塔をたずね「カメラ」に収めました。まだ昭和の塔を含め120余の未訪の塔があり、これが期待と不安の材料ともなっています。

私の塔めぐりは専ら独り旅ですが、それは山中の静寂の中で古塔の美を満喫したいがため、塔をこよなく愛する同好の士があれば、共に日本古来の美を讃仰したいと思っています。



キャッチボールから

庶務担当係長
海老原 俊 昌

今回の人事異動で統計課へ勤務することになりました。初めての経験ですが、よろしく願いいたします。

さて、話題に乏しいので、我が休日から考えることを、ひとこと書いてみよう。大洗町にリトル大洗という少年野球チームがある。それは草野球ではあるが一応硬式野球である。ここ三年ほど休日は返上、毎週グラウンドへ出て大声を上げています。その中身は一応コーチと言われているが自ら楽しんでいるといったところである。プロ野球でも草野球でも基本はキャッチボールである。十分にキャッチボールをして身も心も野球そのものにしていくのである。投げる受けるの繰返しのうちに心の投げ合いになっていくの

である。気持が一つになって全体が整然としてくる。もうこうなればどんな厳しい練習にも耐えられ、怪我もなく一日楽しく野球が出来ることとなるのである。

最近社会問題となっている家庭内暴力、校内暴力等子の親として考える時に、親と子が、先生と生徒が、あるいは夫と妻が、十分にキャッチボールをしているだろうか、心と心の投げ合いをしているだろうか、また忙しい社会環境もそれを許すことが出来ないのだろうか。考えさせられる今日この頃である。



転勤に寄せて

企画分析担当
羽部 順 行

転勤前は、土浦市内に住んでいて、職場と住居(独身寮)の間が、マイカーで10分程度という、朝寝坊の私にとっては恵まれた生活を送ってきた。現在は、実家からバス・電車を乗り継いで通勤しているが、朝は特に、満員電車で揺られながらの毎日で、環境の変化に身体がついていかないといった現状である。満員電車の経験は、遠い昔のことであり、怠惰な生活に慣れきった身体を人ごみの中に漂わせて通っている。

さて、統計課の業務は、数字の分析という緻密な仕事で大半であり、まず身体のコンドিশョンを整えてからでないと頭脳の働きも活発にならないため、良い仕事もできないので、一刻も早く生活環境の変化に適応していかなくてはと、あせる毎日である。



統計課に配属されて

企画分析担当
斉藤 学

文章は、一説によると人を表わすそうです。また言葉と違い、書かれた文は形として残ります。そういう事を考えると、今、原稿用紙に向かいながら、筆を進めることにためらいを感じずには、おられません。ましてや生来の筆無精、悪筆、文字をもって人を感動させた事は一度もない、という悪条件が重なれば、一層筆は重くなるというわけです。とはいうものの御厚意により、掲載させていただくわけで、駄文とは思いつつ意を決して書かせていただきます。

私はいわゆる新採というもので、この統計課が社会人としての初めての職場です。そのため要領がわからず、回りの人達に色々と気を使ってもらってやっているという感じ

です。自分では、意識しない部分で失礼な事をしているかも知れません。というわけで、社会人としては半人前以下という事になるのでしょうか。つまり、これからが勉強というわけで、私なりに努力していきたいと思います。その過程で、何度失敗するか見当もつかなく、そのたびにまた迷惑をかけるという事になるのですが、見捨てずに御指導いただければ幸いです。私も早く一人前になれるように一生懸命やっていきたいと思っています。



統計課に赴任して

人口労働担当課長補佐
内田 実

何時の頃からかすっかり定例となっていた感じの6月の職員定期異動も、今年から4月1日付となり、あちこちで見られた例年より一足早い異動風景も、すっかり落ちつきを取戻した感のある今日この頃である。

いま春は真っ只中、心込む4月、窓から眺める弘道館の梅もすっかり緑に衣がえ、また県庁周辺に春を我が者顔に美しく咲き乱れた桜も、今僅かにその名残を止める程、目に写る緑が一層の新鮮さを益々深めつつある。

この新鮮な風景をバックに、新しい気持で、新しい仕事に精一杯取り組みたい。統計については、前任の医務課の分掌事務の中に「人口動態統計、その他衛生統計に……」があったが、生来の不勉強と認識不足から、統計という仕事がかれ程までに多種多様であり、その意義の深さ、重要性そして必要さを、臆げながら感じはじめた現在である。

この様ななかで、新しい仕事に対する限りない不安、不慣れと能力不足から皆様に種々御迷惑をお掛けすると思えますので、よろしく御指導の程お願いします。



からだを動かして 自分をきたえる

人口労働担当
友部 一 男

県職員となって10年目に入った。そして4月の定期異動で初めての本庁勤めとなり、統計課に席を置くこととなった。

統計課と言えば県庁内でも屈指のスポーツの盛んな課所である。野球、卓球、バドミントン、排球、庭球等数え上げたらきりが無い。私は汗をかくのが好きなので一番いいところに勤務できたと言っている。体を動かして汗をかく、そして、タオルで汗をぬぐいさっぱりしたところで、仕事をする。毎日机に向かうことのストレスをスポーツすることにより解消し、肉体的にも、精神的にも健康でよりよい仕事ができればと考えています。

終わりに、若さでは取れないつもりですが、仕事の方で

は、何かと能力不足のため、御迷惑をかけることもあると思えますのでその節には、よろしく！



そこで、考えたこと

商工担当課長補佐
遠西 光 正

人事異動の内示で、統計課へ移ることを知りました。そのとき、何と無く、あるフランスの詩人の書いた「骰子の一擲ついに偶然を減せず」の詩を、思い出していました。

それから間も無く、統計課に闊席しましたが、何しろ、統計のしごとに触れるのは初めてで、当分は、成り行きにまかせる以外、手は無さそうです。

ところで、外からばかり眺めていた、そのしごとの中味を、私なりに考えてみました——本来的な比喩とは、凡そ乖離した引用で恐縮ですが——「……そのまた草鞋を作る人」と言ったところでしょうか。とは言っても、この草鞋の良し悪しが、経済社会の将来の方向づけに、かなりの影響を及ぼすようにも思えてなりません。

草鞋作りのお仲間入りした私は、今、縄の緋い方を勉強中といったところですが、これを契機に、いわゆるプロテウスの様な人間に変身できたとしたらどうだろうか。そして、統計課の諸先輩のように、果して統計的栄光に浴せるか、極めて興味ある問題です。そのときこそ、私は再び考えるでしょう。

骰子の一振りには、「偶然」を抹殺できない、と。



書 道

農林経済担当
猿田 俊 一

私の趣味の一つに書道があります。

書道との出会いは、小学三年の時でした。先生の指導のもとになれない筆をもち、おそろおそろ半紙に書いてみたことを覚えております。以来、年数だけは、二十年近く重ねましたが、生来のなまけぐせのため、一向に上達はしておりません。

文字は、自分の意志を他人に視覚を通して伝達するものです。万人に共通に理解され、約束さえ守って書かれていれば形のよしあしなど問題ではありませんが、読みやすい文字がよくないわけはありません。その書かれたものに書いた人の個性や感情がくみとれる、いわゆる人間らしさがあらわれているかどうかということやその書を見たときに美しいとその人の心をとらえてたのしませる力のある書を書きたいと念じている。

現在、実用的な面から、「細字」の練習をしております。鑑賞にたえられる、芸術性のある文字をめざして。